

京都・南禅寺境内の93m続くレンガ造りの水路閣で知られる「琵琶湖疏水」をつくった田辺朔郎。  
石で山を表現し、白砂を海に見立てた独創的な「南禅寺・方丈庭園」をつくった小堀遠州。  
南禅寺を舞台に、時代を超えて受け継がれる空間を生み出した技術者たちがいた。

# 偉人伝

the life of a great person

土木  
建築

VOL.5

建築

「一五七九年～一六四七年」

## 小堀 遠州

Enshu Kobori

茶道・築城・作庭で  
名を残し江戸時代の  
文化を牽引した



小堀遠州は、1579(天正7)年、現在の滋賀県長浜市に生まれる。幼名を作介といい、豊臣秀吉の弟である秀長の小姓を務めた。10歳の頃、秀長が秀吉を招いて茶会を主催。茶の指導に来た千利休の点前を間近にし、作介は茶道への関心を深めていく。その3年後、朝鮮出兵に反対した利休は、秀吉の怒りを買って切腹。利休亡き後、その後継者の古田織部に弟子入りする。18歳で「洞水門」と称する独創的な手洗い鉢をつくり、織部を驚嘆させたという。29歳の頃、徳川家の作事奉行であった父が急逝し、小堀家と役職を相続。1608(慶長13)年、駿府城普請奉行の功により「従五位下遠江守」を授かり、「遠州」と呼ばれた。茶の湯と建築で培われた才能は作庭にも発揮された。京都の南禅寺・方丈庭園では、石を山に見立て、白砂で波紋をつくり海を表現。この庭は「書院式枯山水」の代表として知られている。遠州は多彩な能力を持ち、江戸時代初期の文化を牽引した大名であった。

土木

「一八六一年～一九四四年」

## 田辺 朔郎

Sakuro Tanabe

水・物資・電気を  
京都に引き込み  
近代化を促進させた



田辺朔郎は、1861(文久元)年、現在の東京都に生まれる。1883(明治16)年、工部大学校(現・東京大学)土木学科を卒業。卒業論文で執筆した「琵琶湖疏水工事」が京都府知事北垣国道の目にとまり、23歳で琵琶湖疏水工事の主任に抜擢される。1885(明治18)年に着工した疏水建設は、全長11.1kmの大土木工事だった。なかでも三井寺下より藤尾村に通じる第1トンネルは当時、日本最長の2,436mということと、地盤が固く湧水の多い地質だったため難工事であった。しかし、田辺は豎坑(シャフト)を2本掘り4方向から掘削する新工法を用いて問題を解決した。数々の難題を乗り越えながら、1890(明治23)年、17名の尊い犠牲の上に琵琶湖疏水は竣工。これにより、飲料水、物流経路の確保、水車動力による発電が可能となった。当時最長の疏水の成功と同時に田辺は、28歳の若さで日本初の水力電気事業という偉業をも成し遂げた。